

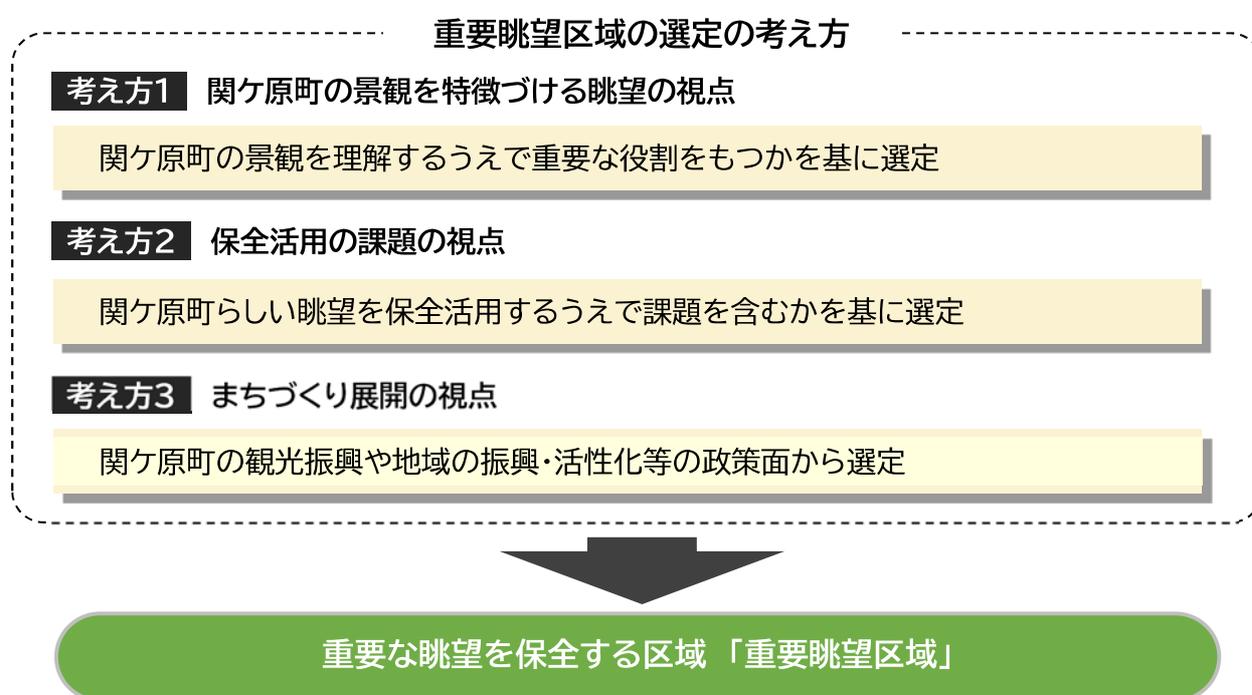
第5章 | 重要眺望区域および重点区域

1 重要眺望区域

関ヶ原町には自然、歴史、交通等に関わる特徴をもつ眺望景観が数多くみられます。いずれも関ヶ原町にとって次代に継承すべき大切な眺望景観であり、保全活用に努めていくことが必要です。そのため優先的かつ重点的に保全活用を推進する眺望景観の範囲を「重要眺望区域」に位置付けます。

(1) 重要眺望区域の選定の考え方

重要眺望区域の範囲は、市街地を含む広範囲に及ぶことから、住民の景観形成活動を誘導し、景観意識の向上や機運を高めることが必要です。そのため、重要眺望区域は、次の3つの考え方から選定します。

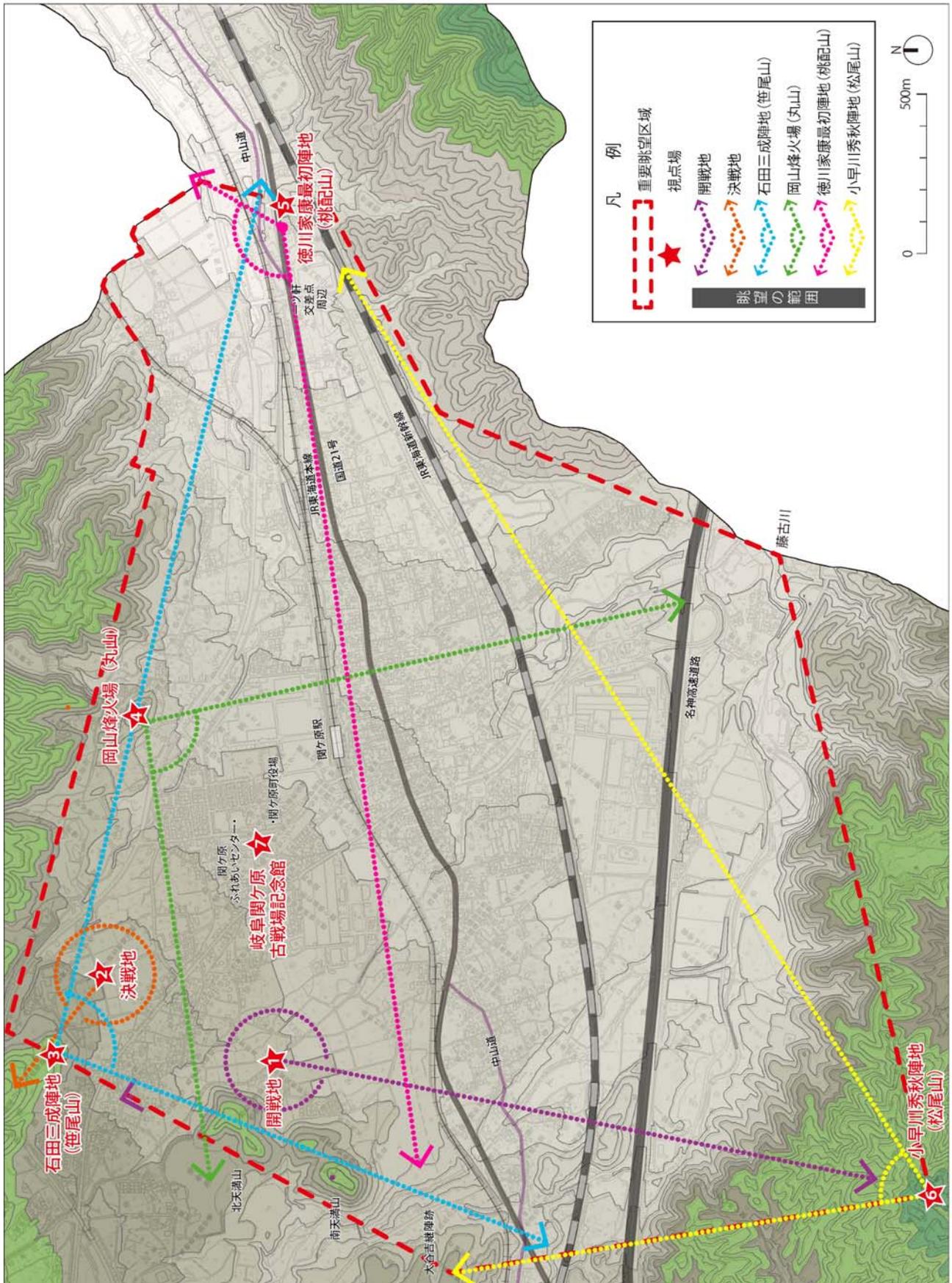


(2) 重要眺望区域の設定

関ヶ原町の誇る関ヶ原古戦場は、天下分け目の関ヶ原の戦いの地として住民や来訪者に親しまれています。関ヶ原古戦場は、歴史的な建造物のような目にみえる資産は少ないものの、主要な視点場からは東軍・西軍の陣跡や烽火場の位置関係をみることができます。

ここでは、関ヶ原古戦場を中心とした眺望について視点場を選定し、各視点場から眺望できる範囲を重要眺望区域に定めます。

重要眺望区域:関ヶ原古戦場への眺望



視点場及および重要眺望区域の範囲

(3) 重要眺望区域の景観特性と景観形成基本方針

①重要眺望区域の景観特性

関ヶ原町では、「史跡関ヶ原古戦場整備計画策定報告書（H28.3, 関ヶ原町教育委員会）」により、関ヶ原古戦場の「陣跡相互の配置・位置関係」「地形・眺望」「遺構等」の要素を「積極的に保存すべき要素※）」として位置付け、適切な保全管理および整備活用に取り組んでいます。本計画では、積極的に保全すべき要素を踏襲し、重要眺望区域において配慮します。

※ 史跡関ヶ原古戦場整備計画(H28.3,関ヶ原町教育委員会)

1 開戦地

[景観特性]

- 松尾山等の山並みを背景に、360度の視界が広がる。歴史的な史跡に水田が広がり、天満山や神明神社の樹林が美しい歴史的風土をつくり出している。
- 北から南に向かって地形がゆるやかに傾斜し、四方が山に囲まれる。視界はほぼ水平であるが、わずかに見下ろす、広がりのある見晴らしの良い眺望景観を形成している。

[積極的に保存すべき要素]

天満山麓地域の地形 / 天満山への眺望 / 松尾山への眺望



2 決戦地

[景観特性]

- 松尾山等の山並みを背景に、360度の視界が広がる。歴史的な史跡に水田が広がり、笹尾山や天満山等がみえる歴史的風土をつくり出している。
- 北から南に向かって地形がゆるやかに傾斜し、四方が山に囲まれる。視界はほぼ水平であるが、わずかに見下ろす、広がりのある見晴らしの良い眺望景観を形成している
- 関ヶ原町の市街地の広がりを眺望できる。

[積極的に保存すべき要素]

笹尾山麓地域の地形 / 笹尾山 / 天満山 / 松尾山 / 岡山烽火場への眺望



3 石田三成陣地(笹尾山)

[景観特性]

- 松尾山を背景として、山間の平坦部の上に市街地と田園が形成されている様子を眺望できる。
- 視点場から視界を遮る建築物や工作物等はなく、市街地や田園の広がりのある見晴らしの良い景観を形成している。

[積極的に保存すべき要素]

関ヶ原全体と松尾山への眺望



4 岡山烽火場(丸山)

[景観特性]

- 松尾山を背景として、山間の平坦部の上に市街地が形成されている様子や、市街地の中に関ヶ原町の産業を支える大規模工場が点在する産業と暮らしが感じられる景観を眺望できる。

[積極的に保存すべき要素]

関ヶ原全体と松尾山への眺望



5 徳川家康最初陣地(桃配山)

[景観特性]

○桃配山の樹林により、南、東の視界は閉ざされ、国道 21 号や旧中山道の通る西に向かって視界が開けており、旧中山道松並木をみることができる。

○視点場からは、遠方の決戦地や開戦地のある方角や、市街地を眺望することができる。

[積極的に保存すべき要素]

旧中山道への眺望



6 小早川秀秋陣地(松尾山)

[景観特性]

○山並みを背景に、関ヶ原の戦いにおける東軍・西軍の両陣地の配置や、関ヶ原古戦場全体の様子を眺望することができる。

○市街地を中心としたまちの広がり、暮らしの中に大規模な工場があることなどの様子が確認できる。



7 岐阜関ヶ原古戦場記念館

[景観特性]

○岐阜関ヶ原古戦場記念館には展望台が設けられ、歴史的な史跡に広がる水田や陣地跡、背景となる山並みを 360 度に眺望できる。

○眼下の旧北国街道沿いにある徳川家康最後陣地の史跡指定範囲には、床几場と土塁、土壇や松が残されている様子を見ることができる。



②重要眺望区域の景観形成基本方針

重要眺望区域では、東軍・西軍の陣跡相互の位置関係を眺望でき、当時から変わらない地形により関ヶ原の戦いが想起される眺望景観の保全活用を図ります。

【まもるための方針】

- ・建築物等の高さの制限や屋上施設の景観誘導、樹林・山林の適切な管理等により、各所の陣跡周辺およびその前後の景観を保全する。

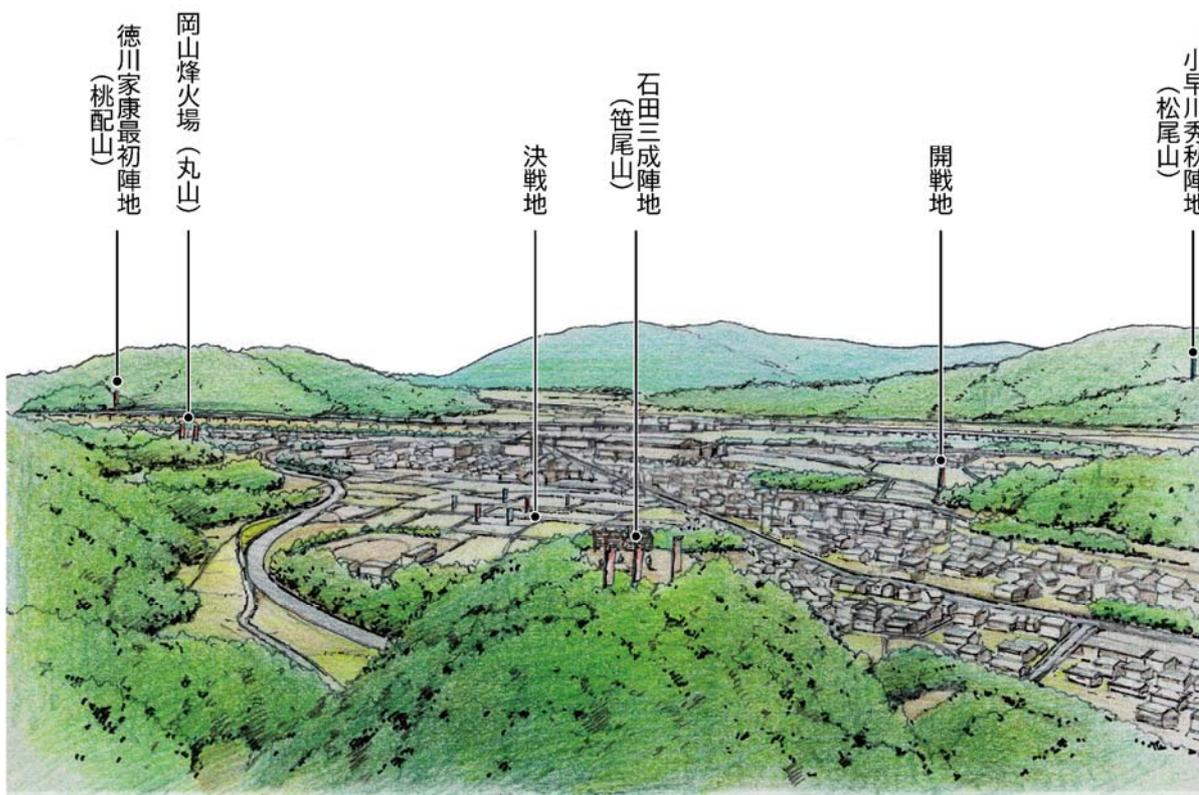
【そだてるための方針】

- ・歴史的な町並みに不調和な要素の修景や、落ち着きのある素材やデザインへの配慮により、景観的価値の高い眺望景観を形成する。

【つくるための方針】

- ・関ヶ原古戦場が有する景観的価値を人々が理解し、多様な感じ方ができるような情報発信や空間づくりを推進するなど、関ヶ原町全体としての魅力の向上を図る。

【重要眺望区域 配慮基準イメージ】



注：このスケッチは、景観計画運用後の改善イメージを示したもので、実際の景観とは異なります。

(4) 重要眺望区域の届出対象行為

重要眺望区域の届出対象行為は、景観計画区域（町全域）に準じるものとします。（33 頁参照）

(5) 重要眺望区域内的の景観形成基準

① 【C】配慮基準

重要眺望区域では、関ヶ原の戦いにおける陣跡相互の位置関係や旧街道の位置を確認できる視点場からの眺望の保全が重要です。眺望点からみえる良好な眺望景観の調和を図るため、配慮基準を定めます。配慮基準の適合には、視点場からの検討を行う必要があります。

重要眺望区域内の共通配慮基準と視点場別配慮基準は次のとおりです。

対象範囲:重要眺望区域

《共通配慮基準》

【建築物・工作物の配慮基準】

項目	配慮基準
高さ	・エリアごとの高さ基準を超えないように配慮する
配置および形状	・視点場から眺望要素に対して配慮した配置および形状とする
素材・意匠・色彩	・眺望景観に配慮した素材・色彩・意匠を用いる
外構・設備	・眺望景観との調和に配慮し、必要な緑化を行う

【開発行為等の配慮基準】

項目	配慮基準
開発行為	・視点場からの眺望に配慮したものであること
土石類の採取	・採取地が周囲から目立たないように、採取位置および方法の工夫や敷地周辺において既存樹木の保全や緑化等の措置を行う
木竹の伐採	・視点場からの眺望に配慮したものであること
土石等の堆積	・視点場からの眺望に配慮したものであること

■高さ基準の考え方

- ・現時点において、それぞれの視点場から山並みのスカイライン等を阻害するような逸脱した建築物や工作物はみられないため、高さ基準は現況の町並みライン^{※)}の高さを目安とします。
- ・町内の既存の大規模建築物の現況を踏まえ、高さの上限は30mとします。
- ・高さ基準は、基準の上限値を推奨するものではありません。建築物や工作物の高さは、現況の町並みラインや周辺環境に配慮することが大切です。

【高さ基準】 視点場からの町並みライン高さ(上限 30m)

※ 町並みライン:視点場から眺めたときの建築物等の町並みの輪郭線。

≪視点場別配慮基準≫

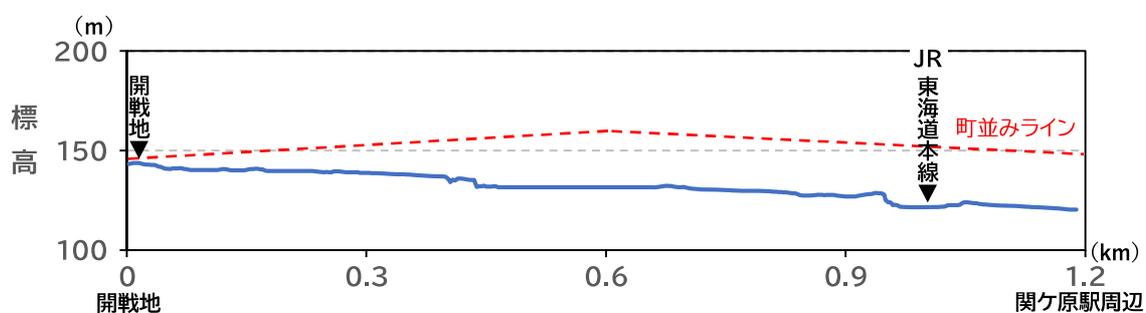
1)開戦地

配慮基準
・視点場からみたときの天満山麓の地形や天満山、松尾山や市街地を尊重し、高さや色彩について配慮する
・住宅の勾配屋根が並んでみえる町並みを尊重し、屋根形状に配慮する

(視点場からの眺望と町並みライン)



(地形断面図)



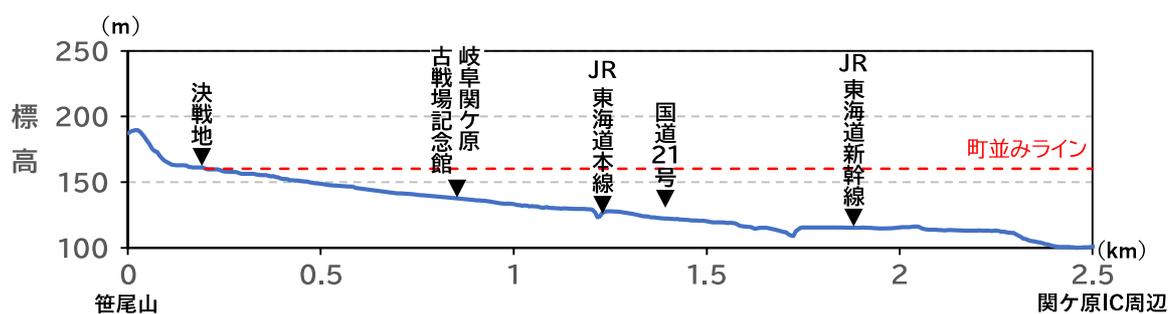
2)決戦地

配慮基準
・視点場からみたときの笹尾山麓地域の地形や笹尾山、天満山、松尾山、岡山烽火場や市街地を尊重し、高さや色彩について配慮する
・住宅の勾配屋根が並んでみえる町並みを尊重し、屋根形状に配慮する

(視点場からの眺望と町並みライン)



(地形断面図)



3) 石田三成陣地(笹尾山)

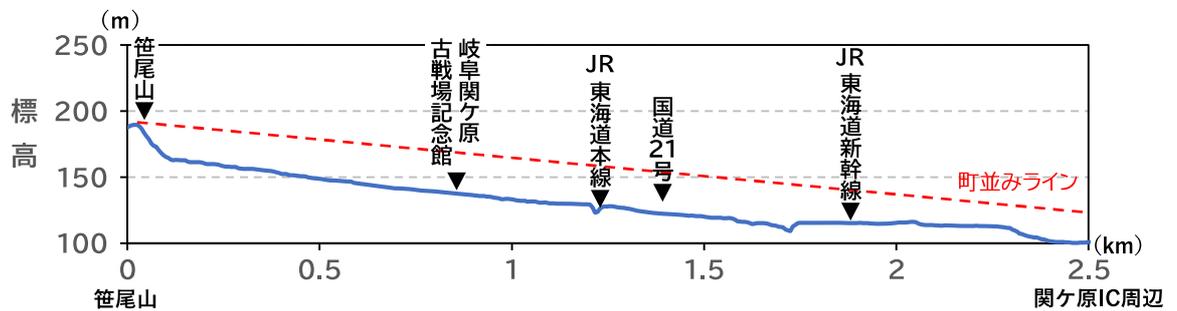
配慮基準

・視点場からみたときの松尾山や市街地を尊重し、高さや色彩について配慮する

(視点場からの眺望と町並みライン)



(地形断面図)



4) 岡山烽火場(丸山)

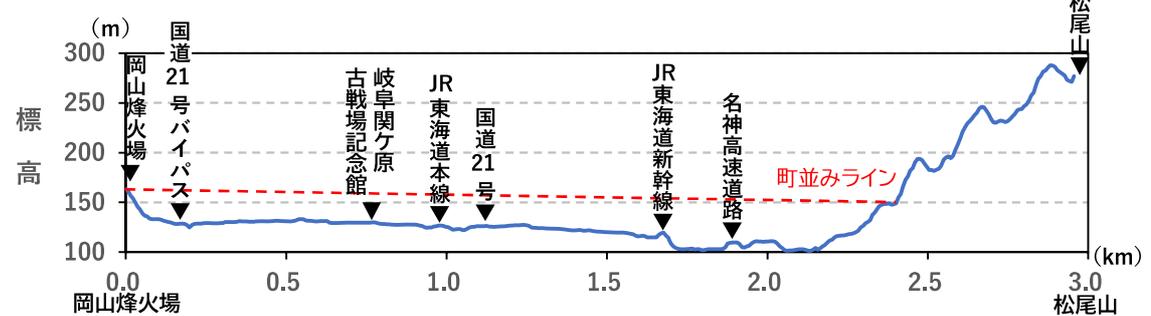
配慮基準

・視点場からみたときの松尾山や市街地を尊重し、高さや色彩について配慮する

(視点場からの眺望と町並みライン)



(地形断面図)



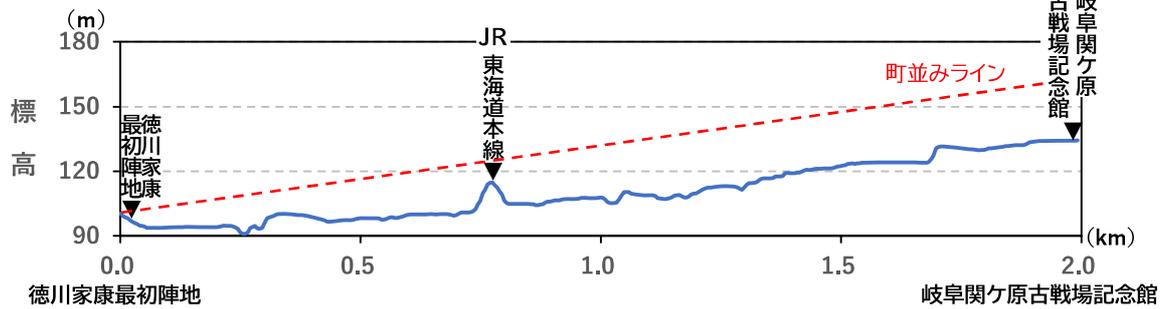
5) 徳川家康最初陣地(桃配山)

配慮基準

・視点場からみたときの中山道の松並木や市街地を尊重し、高さや色彩について配慮する
(視点場からの眺望と町並みライン)



(地形断面図)



6) 松尾山

配慮基準

・視点場からみたときの関ヶ原古戦場や伊吹山、市街地を尊重し、高さや色彩について配慮する
(視点場からの眺望)



7) 岐阜関ヶ原古戦場記念館

配慮基準

・視点場となる展望台からみたときの旧北国街道や、徳川家康最後陣地をはじめとする関ヶ原古戦場や山並み、市街地を尊重し、高さや色彩について配慮する
(視点場からの眺望)



注: 松尾山および岐阜関ヶ原古戦場記念館は、他視点場の町並みラインの確認により十分な対応が見込まれるため、町並みラインを掲載していません。

2 重点区域

関ヶ原町には、関ヶ原古戦場の眺望をはじめ、旧街道沿いの旧宿場町、旧街道集落地の町並みや、農業、林業、交通、産業等の暮らしに関する景観、心に残る関ヶ原町らしい眺め等、数多くの関ヶ原町特有の良好な景観が残されています。このような関ヶ原町らしい景観を有する区域を、「重点区域」に位置付けます。

(1) 重点区域の選定の考え方

町全域での景観の水準を向上させるために、先導的役割を果たすモデル区域として重点区域を定めます。重点区域における景観まちづくりは、住民の景観形成活動を誘導し、景観意識の向上や機運を高めることが有効です。そのため、重点区域は次の3つの考え方から選定します。

重点区域の選定の考え方

考え方1 関ヶ原町らしさの視点

住民が思う関ヶ原町を代表する景観、誇りに思う景観または好きな景観等の意見を基に選定

考え方2 保全活用の課題の視点

重要性の高い保全活用の課題を多く含むかどうかを基に選定

考え方3 まちづくり展開の視点

関ヶ原町ならではの観光地や、玄関口等、関ヶ原町の観光振興や地域の振興・活性化等の政策面から選定

重点的に景観形成を図る区域「重点区域」

(2) 重点区域候補地

重点区域の選定の考え方から、次の 23 箇所の重点区域候補地を選定しました。重点区域候補地は、今後、住民等の意見を踏まえた上で重点区域への移行を検討します。



重点区域の候補地の位置

【重点区域の候補地の概要】

No.	候補地	概要	写真
1	開戦地周辺	○関ヶ原の戦いの主戦場となった場所であり、宇喜多・小西隊が布陣した天満山や、小早川秀秋が布陣した松尾山を眺望できる。開戦地周辺は水田が広がり、合戦当時の地形が感じられる眺望景観を形成している	
2	決戦地周辺	○合戦当日午後に決着がついた場所で、関ヶ原町全体を見渡せる場所である。決戦地周辺は水田が広がり、合戦当時の地形が感じられる眺望景観を形成している	
3	石田三成陣地（笹尾山）	○石田三成が布陣し、ここで合戦の戦況を見極めながら指揮を執った場所である。陣跡から視界を遮るものはなく、合戦当時の地形が感じられる眺望景観を形成している	

No.	候補地	概要	写真
4	徳川家康 最初陣地 (桃配山)	○徳川家康が開戦時に布陣した場所であり、旧中山道を監視できる位置にある。遠方の関ヶ原古戦場や、旧中山道の松並木を眼下に見下ろすことができる	
5	岡山 烽火場 (丸山)	○関ヶ原町の平坦部を眺望でき、開戦時にのろしがあげられた場所である。松尾山を背景として関ヶ原町の市街地を眺望できる眺望景観を形成している	
6	小早川 秀秋陣跡 (松尾山)	○小早川秀秋が布陣し、合戦の戦況がよくわかる場所である ○見晴らしがよく伊吹山までみることができ、山並みを背景として関ヶ原古戦場全体や、市街地を望める眺望景観を形成している	
7	徳川家康 最後陣地 ・ 旧北国街道	○旧北国街道の沿道には、徳川家康最後陣地や東首塚といった国指定史跡や、旧街道らしい町並みが残るほか、関ヶ原町を代表する大規模工場が立地している。古くから現代まで続く人々の暮らしが感じられる景観を形成している	
8	旧中山道 関ヶ原宿	○旧中山道関ヶ原宿当時の道幅や、屋号が店名に継承されている ○沿道には、木材が経年により黒くなった旧街道らしい建築物が数軒残り、現代的な建築物と混在することで特徴的な町並みを形成している	
9	旧中山道 今須宿	○美濃国の旧関ヶ原宿と近江国の旧柏原宿の間に位置する旧宿場町である ○旧街道沿いには、ベンガラ塗の建築物が一部にみられ、黒色の建築物が残る関ヶ原宿と対比する景観を形成している	
10	旧中山道 松並木	○旧中山道の松並木であり、樹齢 300 年余りの老木が旧街道の両側に残っている ○旧中山道との境に高低差があり、南を見上げると徳川家康最初陣地(桃配山)、北を見下ろすと田園が広がっている	

No.	候補地	概要	写真
11	不破関	○不破関跡周辺は、起伏のある地形に沿って旧街道らしい建築物と庭の植栽の緑が連続する町並みを形成している	
12	旧東山道 山中宿	○旧関ヶ原宿から旧今須宿に向かう今須峠の手前にあり、旧街道らしい建築物と庭の植栽の緑が連続する町並みを形成している ○旧中山道と並行してJR東海道本線が通っており、旧街道から鉄道をみることができる	
13	旧東山道 野上宿	○旧関ヶ原宿に向かってやや上り坂で、ゆるやかに湾曲する道により、歩きながら視界が変化する景観が形成されている。旧街道らしい建築物と庭の植栽の緑が連続する町並みを形成している	
14	旧伊勢街道	○車が1台分ほど通れる道幅であり、道路との敷地境界からほぼセットバックせずに建築物や塀が立ち上がる町並みを形成している ○秋葉山の火祭りの古式花火の打ち上げ会場が沿道にあり、その時期になると浴衣姿の人々が町並みの中を行き交う姿がみられる	
15	伝説地	○関ヶ原町には、自害ヶ峯、常盤御前の墓、日本武尊伝説、寝物語の里、六部地蔵、聖連寺の八房梅等の多くの伝説、伝承が残されており、それぞれ地域の景観を形成する重要な景観資源である	
16	藤古川による 河岸段丘 (玉の集落)	○伊吹山の麓にあり、冬には特に雪深い地域である。河岸段丘上に集落が形成されており、集落の下には田園が広がり、さらにその下には藤古川が流れている ○集落の中心を旧北国街道が通り、石積みの町並みが残っている	
17	今須杉 (林業)、 農村集落	○山並みを背景として、今須川によりつくられた低地に田園が形成されている。山並みや択伐林を背景として田園、集落、農道の見通しの良い景観を形成している ○農道脇には木材が積まれるなど、人々と林業の暮らしが感じられる	

No.	候補地	概要	写真
18	マンボ、 ため池	○関ヶ原町内には、農業を支えるため池が数多くあり、四季折々に美しく豊かな自然景観を形成している	
19	十九女池	○池には絶滅危惧種のスイレンが自生し、周辺には桜や紅葉が咲く豊かな自然景観を形成している。池の外周はウォーキングコースとなっており、住民の憩いの場ともなっている ○池の中央を JR 東海道新幹線が通り、新幹線が水面に映る交通の景観を形成している	
20	暮らしの 中から みえる 伊吹山	○伊吹山は暮らしの背景となる眺望景観であり、町内の至るところから臨むことができる ○住民は伊吹山をみて気候、気温を予測するなど、日々の暮らしに根付いた身近な景観を形成している	
21	暮らしの中 にある 交通	○旧中山道(旧東山道)、国道、名神高速道路、JR 東海道本線、JR 東海道新幹線等の交通が集中している。橋りょうや高架等が山並み、河川等の自然や集落の中にあり、特徴ある交通の景観を各地で形成している	
22	JR 関ヶ原駅	○JR東海道本線の駅であり、関ヶ原町の玄関口として機能する。駅ホームからは、岡山烽火場を望むことができる ○駅前には関ヶ原駅前観光交流館が整備され、関ヶ原古戦場へ至るルートでは、関ヶ原の戦いに関するサインや幟旗が設置されるなど、来訪者を迎える整備が進められている	
23	工場等	○関ヶ原町では、戦後よりさまざまな産業が発達し、今日まで日本の産業と関ヶ原町の人々の暮らしを支えており、特徴ある景観が各地にみられる	

(3) 重点区域への移行

重点区域候補地について、重点区域への移行を推進します。重点区域への移行には、景観計画の変更が必要です。